NIE実践報告

1．タイトル：☆新聞を情報ソースに意識付ける授業の工夫

2．学校名

岡山県岡山市立西大寺小学校

3．実践者名（代表者名）

石原洋一

4．学年

第3学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

総合的な学習の時間　29人

6．単元（本時の学習課題）名

今年の西大寺の会陽はどんなお祭りだったのかな

7．目標（狙い）

地方紙の地域の代表的な行事についての記事を取り上げ調べる活動を通して、地方紙を活用すると地域の多種多様な情報を収集できることをとらえ、地方紙は、周辺地域に行事の情報を発信することで、関心を集めることにより、地域の発展を支えていることとなることが分かることができる。

8．評価の視点

・地方紙と全国紙の西大寺観音院会陽についての写真、記述などの記事から、今年の会陽がどのように行われたかとらえることができる。
・新聞社の方の講話から、全国紙は全国の情報を広くとらえ、地方紙は、地域の情報を詳しくとらえるという特徴

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

関連単元　「昔から続いているお祭り」西大寺観音院の会陽（社会科：岡山市副読本5時間）
前単元　「西大寺のお宝をさがそう」（総合的な学習の時間　10時間）
観音院や西大寺の町の活性化に取り組んでいる方についての調べ活動

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①全国的に有名な会陽が全国でどのように報道されているか、全国紙を使って調べる。
②地方紙を使って今年の会陽を詳しく調べる。（日時、参加者数、福男、祝主、参加者の声）
③地方紙と全国紙の会陽についての記事を比較し、その違いについて新聞社の方の講話を聞くことで、地方紙と地域の人々の関係についてとらえる。

（留意点）
全国紙の特徴や良さについても、新聞社の方の講話により押さえるようにする。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

地域をよくしたいという願いは地域の人々も地方紙も同じだということが分かった。

12．成果と課題

会陽の学習を通して、地方紙は自分が興味をもった情報収集に役立ち、地域の人々のくらしに役立つ情報ソースであるという意味をつかむことができた。次年度は、本年度の実践を全国紙活用の学習へつなぐ研究を進めていきたいと考える。